

新刊紹介

『必携 在宅医療・介護 基本手技マニュアル』

編集 東海大学教授 黒川 清
永井書店 四、七〇〇円



介護保険は医療・保健・福祉の新しい連携を可能にし、各地で様々な広がりを見せている。そしてこの制度の要となる介護支援専門員となるための受講資格試験は、広島県では今年度も三、五二〇名が挑戦し、相変わらずの人気であり、これに関する書籍は数多く発行され、売れ

行きも爆発的であったと聞いている。

しかし、それぞれの専門分野をつなぎ、それぞれの弱点を補う教科書としては、長寿開発センター発行の「介護支援専門員テキスト」が唯一標準のものとされている。しかし、資格をとった後の現場での実用的ガイドブックとしての弱点でみると、各分野にわたって網羅されているが、全三巻の膨大なもので、日常業務のハンドブックとしてはとても使用できない。また受験のための特訓問題集は数多く発行されているが、受験テクニックに終始しており業務の参考には程遠いし、各分野の権威者が執筆した類の書籍は専門化し過ぎて、精神的支えにはなっても、業務に役に立つとは言えない。医療が在宅医療へ大きくシフトし、その流れの中で在宅生活を支えるということになれば、介護保険のすそ野は大きく広がり、医師・看護婦だけでなく

く介護支援専門員にも役立つ携行バイブルの登場が待たれていた。

この度、永井書店から発行された「在宅医療・介護基本手技マニュアル」編集 東海大学教授 黒川 清 は在宅医療・介護の基本手技のみならず、法的・倫理的諸問題まで網羅し、関係職種の間連携等これからの在宅医療・介護の周辺にまで踏み込んだ内容である。そして在宅の現場ですぐに役立つように分かりやすい記載で統一され、さらに価格も四、七〇〇円と低く抑えられており、二十一世紀の日本での在宅医療の普及に向けての執筆者たちの意気込みが感じられる。その上、本書の帯びには、坪井栄孝日医会長からの推薦文が付けられている。本書はまさに一般臨床医・開業医・看護婦を始め社会福祉士・介護福祉士・ケアマネージャー等関連職種の間連携の必携マニュアルとして推薦できる。

なお在宅医療・地域ケアシステムの実践的指導者として全国的に知られている尾道市医師会・片山壽会長も「在宅医療の後方支援体制との連携」というテーマで分担執筆されているのであわせて紹介する。

(常任理事 高杉 敬久)